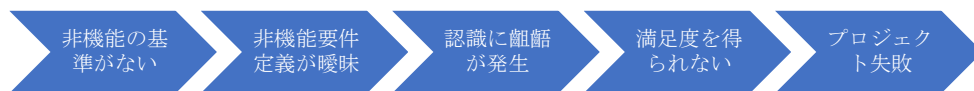


要旨

1. 背景

IT プロジェクトのほとんどは失敗に終わると言われている。その裏付けとして、「ソフトウェア開発データ白書 2016-2017」によると、「顧客満足度に対するベンダ側の主観評価」において「十分に満足している」と回答したのは 31.2%^(*) という結果が出ている。なかでも、失敗の要因として最も多く挙げられるのは要件定義に関わる問題となっている。

要件定義の中でも、機能要件（クライアントから要望された機能）に比べ、非機能要件（それ以外の機能）は定義が曖昧となり、最終的にクライアントの品質・納期・予算の満足度を得ることが難しく、プロジェクト失敗の大きな割合を占めている。



2. 目的

非機能要件が失敗する主な原因は、定義における一般的な基準が無いことによりクライアントに明確な確認が出来ず、後に影響が出てから気付くことが多いためと考えた。

そのため当グループでは、クライアントから直接要望を受けて要件とする人（システム担当者）がプロジェクトを成功に導けるようにするため、要件定義の失敗要素のひとつである「非機能要件」について研究することとした。

3. 非機能要件とは？

まず、非機能要件とは何かの認識合わせから研究を始めた。非機能要件とはシステム設計やシステム開発上の要求分析において、要件、システム要件といった機能面以外の全般を指す。システムを検討する上でクライアントからの要望以外にもシステムが問題なく稼動するために考慮しなければならない要件となり、また、クライアントの満足を得るためにも非常に重要であると考えられる。

4. 仮説

研究を進めていると独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）が公開している「非機能要求グレード表^(*)」に辿りついた。「非機能要求グレード表」は 6 つの大項目で要求項目を定めており、236 のチェック項目が存在する。「非機能要求グレード表」を活用することで非機能要件を網羅できるのではないかと考えた。

しかし、「非機能要求グレード表」は公開時期が 2010 年である。クラウドサービスやスマートデバイスの普及など昨今の IT 技術の向上により、今と数年前では求められる非機能要件についても変化していると考えられる。このことから、「非機能要

要旨

「非機能要求グレード表」のチェック項目にも、今のシステム開発において過不足している点があるのではないかと考えた。

5. 検証

ターゲットを「システム担当者」として議論を行った結果、「非機能要求グレード表」の6つの大項目の内、3つの大項目（可用性、性能・拡張性、運用・保守性）に焦点を当て、検証を実施した。

各大項目について、“今”検討しなければならない非機能要件についての過不足を確認し、より今のシステム開発に即した項目の検討を行った。

6. 考察

非機能要件については要件定義段階で「非機能要求グレード表」を利用し、時代の変化やクライアントの期待に合わせて必要な項目を検討することで、要件定義漏れを防ぐことができると考えられる。

しかし、要件定義段階で要件定義漏れを防ぐことができても、すべての非機能要件に関する問題を防ぐことは難しい。プロジェクトを成功に導くためには非機能要件を定義するだけでなく、クライアントとシステム担当者間での非機能要件に対する齟齬をなくすことや本稼働前に様々なテストケースで検証を行うことも重要だと考えられる。

7. 最後に

ITを取り巻く環境は日々進化しており、クライアントの要望も大きく変わってきているが、システム担当者はクライアントが求めることを漏れなく認識し実現する必要がある。当研究の成果が、プロジェクト成功へのヒントとなれば幸いである。

8. 参考文献

*1: 独立行政法人 情報処理推進機構 『ソフトウェア開発データ白書 2016-2017』
75 ページ 図表 4-14-6 「顧客満足度に対するベンダ側の主観評価」

*2: 独立行政法人 情報処理推進機構 『非機能要求グレード表』
<<https://www.ipa.go.jp/>>

文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する商標もしくは商号です。